

■ 演奏者紹介



みやざき みえこ Mieko Miyazaki 箏

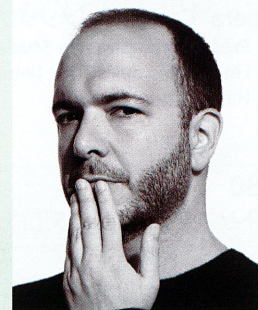
東京生まれ。9歳から箏を始め、古屋富蔵、田村祥子に師事、東京芸術大学で学び、在学中皇居での御前演奏に抜擢される。国際交流基金の派遣演奏家選ばれ、アジア、欧米で公演し、演奏家としての地位を確立、また作曲家としてもNHK教育テレビの子供向けプログラムのために多くの曲を提供した。特に2003年に発表した「潮流」は月刊情報誌「邦楽ジャーナル」のアンケート調査で箏の名曲30選に選ばれている。'05年フランスに拠点を移し、当時ヨーロッパではあまり知られていない楽器の無名の演奏家だったが、定期的にソロコンサートを始め、ジャズのグエン・レ、M.ベニータ、D.クラヴィック、舞踏家カルロッタ池田らを始め、多くのオーケストラやアンサンブルとの共演を重ね、コルシカ島の伝統歌謡グループ「Voce Ventu」との出会いから生まれたアルバム「Tessi Tessi」、さらにはその経緯を綴るドキュメンタリー映画「島々が会おう時」が作られるなど、次第にその名が知られるようになる。自身の楽器と日本音楽を広めるために、フランスのテレビ番組にも数多く出演している。17年の研究と考察を経てバッハの「ゴルトベルク変奏曲」を箏独奏用に編曲、'20年世界初演した。'21年フランスのジャンティイ市立音楽院で日本音楽のクラスを開講、これはヨーロッパで公式に日本の伝統音楽を教える唯一の場所になっている。

ジュリア・デイ=フェラン Julia Deit-Ferrand メゾソプラノ

ローザンヌ高等音楽院でJ.M.シャルボネ、川道博子に師事してソロ及びコンサート修士号、さらにパリ第3大学で社会学の修士号も取得。ローザンヌのカッテンブルクコンクールで最優秀現代音楽演奏賞と聴衆賞を受賞、パリのL.ペラン国際音楽コンクール第3位、2018年にはフランス語圏の若手オペラ歌手を対象としたコンクール「ヴォワ・ヌヴェル（新人歌手）」でスイスのファイナリストに選出された。レパートリーは「フィガロの結婚」のケルビーヌ、「カルメン」のメルセデス、「セビリアの理髪師」のベルタ、「サンドリヨン」のドロテ役など。また現代作品にも多く出演、S.ステン=アナーセンの「ドン・ジョバンニの地獄」の世界初演でいくつかの役を演じ、P.エトヴェシュの「黄金の龍」、M.F.ランゲの「白雪姫」などにも参加、ミュージカルの分野でも「キャバレー」のサリー・ボウルズ、「レ・ミゼラブル」のファンティーヌ、また'22年H.スフビエットによるラ・フォンテーヌの「寓話」でも主要な役を務めた。'25/26のシーズンにはリスボンでF.ブスマンのオペラ「ジュリー」のジュリー、フライブルクでは「ルサルカ」の料理人役、ジュネーヴでL.G.アラルコンの指揮で世界初演された「ディノスと箱舟」のトリケラトプス役を務め、ビール・プロトゥルン歌劇場管弦楽団からバロック音楽、電子音楽、地中海の伝統音楽を融合させたオペラプロジェクトを任されるなど、新作にも注力している。



ファブリツィオ・キオヴェッタ Fabrizio Chiovetta ピアノ



1976年スイス・ジュネーヴ生まれのイタリア系ピアニスト。ジュネーヴ音楽院で学んだ後、シオンのT.ヴァルガ・アカデミーでD.ウェーバーに師事して2003年ソリストのディプロマを取得、J.ペリー等にも師事、特にP.バドゥラ=スコダの愛弟子として知られ、ソリスト、室内楽奏者として活躍。グシュタード・メニュール音楽祭やプリンストン・ピアノフェスティバルなど、G.タカーチ=ナジ、D.マテウスらの指揮の下ヨーロッパのみならず、北米、アジア、中近東などで演奏した。室内楽奏者としてもチェロのG.カビュソンやC.トマ、P.メッシーナ（クラリネット）、A.コヌノヴァ（ヴァイオリン）、ベルチャ弦楽四重奏団、さらにはフルートやバリトン、テノール歌手等とも共演を重ねる。現代曲も多く取りあげ、T.ミュライユの「恋するナイチンゲール」を初演、即興演奏家としても、ジャズ・ハーモニカ奏者G.マレやチェロ奏者のV.セガール等と共演。A.ペルト、A.プレヴィン等の室内楽曲を始め録音も数多く、特にシューマン・アルバムはグラモフォン誌やクラシックス・トゥデイ誌などで高く評価されている。現在ジュネーヴ高等音楽院ピアノ科教授。

レオニード・バラノフ Leonid Baranov ヴァイオリン

サンクトペテルブルク生まれ。5歳からヴァイオリンを始め、ロシア、オーストリア、スイス、アメリカでS.アシュケナジ、V.グルズマン、D.シュヴァルツベルク、I.グリーンゴルト、P.ヴェルニコフ等に学ぶ。2022年ラーン音楽賞を得て、ルツェルン交響楽団、サンクトペテルブルク交響楽団とソリストとしてイスラエル、ロシア、スイス、アメリカで共演した。'22~24フィルハーモニア・チューリッヒ、'24~25 ルツェルン交響楽団、その後スイス・ロマン管弦楽団の第2コンサートマスターに就任。'24年からルツェルンピアノ三重奏団の一員としても活動。使用楽器は1667年のアントニオ・マリアーニ。



久宝由実 Yumi Kubo ヴァイオリン

1980年東京生まれ。桐朋女子高等学校音楽科で石井志都子に師事したのちローザンヌ高等音楽院でP.アモイヤルの下で学びソリスト・ディプロマを取得。ザルツブルグ・モーツアルテウム音楽祭、プラード・カザルス音楽祭をはじめ、アメリカ、札幌などの国内外の音楽祭に出演。アモイヤルとのデュオでローザンヌ・カメラータと共演するなど欧米、アジアで演奏活動を行っている。ローザンヌ・シンフォニエッタ、大阪センチュリー交響楽団などのソリストも務め、昨年大阪万博ではスイスパビリオンでゲスト演奏を行なった。様々な編成の室内楽に力を入れ、スイスと日本の文化的架け橋となるべく、日本の伝統楽器と西洋楽器を融合させたプログラムによるコンサートも企画、演奏している。2009年よりスイス・ロマン管弦楽団第1ヴァイオリン奏者。白馬国際音楽祭には'08年、'18年に続き3回目の出演。

ヴェレナ・シュヴァイツァー Verena Schweizer ヴィオラ

8歳からヴァイオリンを学び、兄弟と一緒にトリオを演奏するため14歳でヴィオラに転向。デトモルトで今井信子、ケルンでR.モークに師事、またフェルメール、アルバン・ベルク、ブランディスなど各弦楽四重奏団のマスタークラスなどで室内楽を学び、ドイツの青少年コンクールでいくつかの賞を得、デン・ハーグで行われたヨーロッパ室内音楽コンクール第2位受賞。アバド率いるグスタフ・マーラー・ユグェント管弦楽団を始め、デトモルトやミュンヘンの室内管弦楽団で活動し、さらにフェルメール、アルバン・ベルクなどの四重奏団のマスタークラスで研鑽を積んだ。1998年からスイス・ロマン管弦楽団の団員を務めるほか様々な室内楽のグループで演奏している。



オリヴィエ・モレル Olivier Morel チェロ



1975年フランス・マノスク生まれ。同地でジャン=ギアン・ケラスにチェロの手ほどきを受け、その後パリ音楽院でM.ストロース、ジュネーヴでF.ギュイエに師事してディプロマを取得、さらにJ.シュタルケルやA.ノラス、A.ピルスマ等著名なチェロ奏者たちにも学び、ソリスト、また室内楽奏者としてペリゴール音楽祭を始めフランス各地、スイス、ノルウェー、ケベック、日本の音楽祭に参加、国立カンヌ管弦楽団を経て、2002年からはスイス・ロマン管弦楽団に在籍。

川道博子リュウエ 音楽総監督

声楽家。京都生まれ。スイス在住。美山節子、坂根豊子に師事、桐朋学園大学音楽部声楽科卒業。東京二期会所属後、スイスのローザンヌ高等音楽院でJ.ビーズに師事してディプロマを取得。「フィガロの結婚」のスザンナ役でデビュー後、オスカル、ノリーナ、フラスキータやミミ等の役でスイスやフランス各地のオペラに出演、ソリストとしてもイタリア、チェコスロヴァキアやサンクトペテルブルクにおいても幅広いレパートリーの音楽活動を続けた。E.タビ、L.サルティ、E.シュバルツコップ等にも師事し、A.ジョルダン、M.コルボー、P.マーク等の指揮下でも出演する。長年母校で教鞭をとり、エヴモード・ユヴォー（メゾソプラノ）、ジュリア・デイ=フェラン（同）、ジェレミー・シュツ（テノール）を初め数々の歌手を育て、現在も若手を指導する傍ら、パリやマコン、スイス各地の音楽学校やコンクールの審査員をし音楽活動を続けている。2005年以来白馬国際音楽祭に参加、'07年からは音楽総監督として意欲的なプログラムを企画し現在に至る。

